

# 1 農薬が水系へ流出するとしたら

圃場管理や農薬散布を適正に行えば農薬が圃場から水系に流出することを防ぐことができます。しかし、圃場管理が不十分であったり散布方法を誤ると圃場から農薬が水系に流出する可能性は高まります。

農薬の流出を防止するためには、農薬が水系へと流出する経路を知り、このパンフレットで紹介する技術を体系的に取り入れて適正な圃場管理や農薬散布を心がけることが大切です。

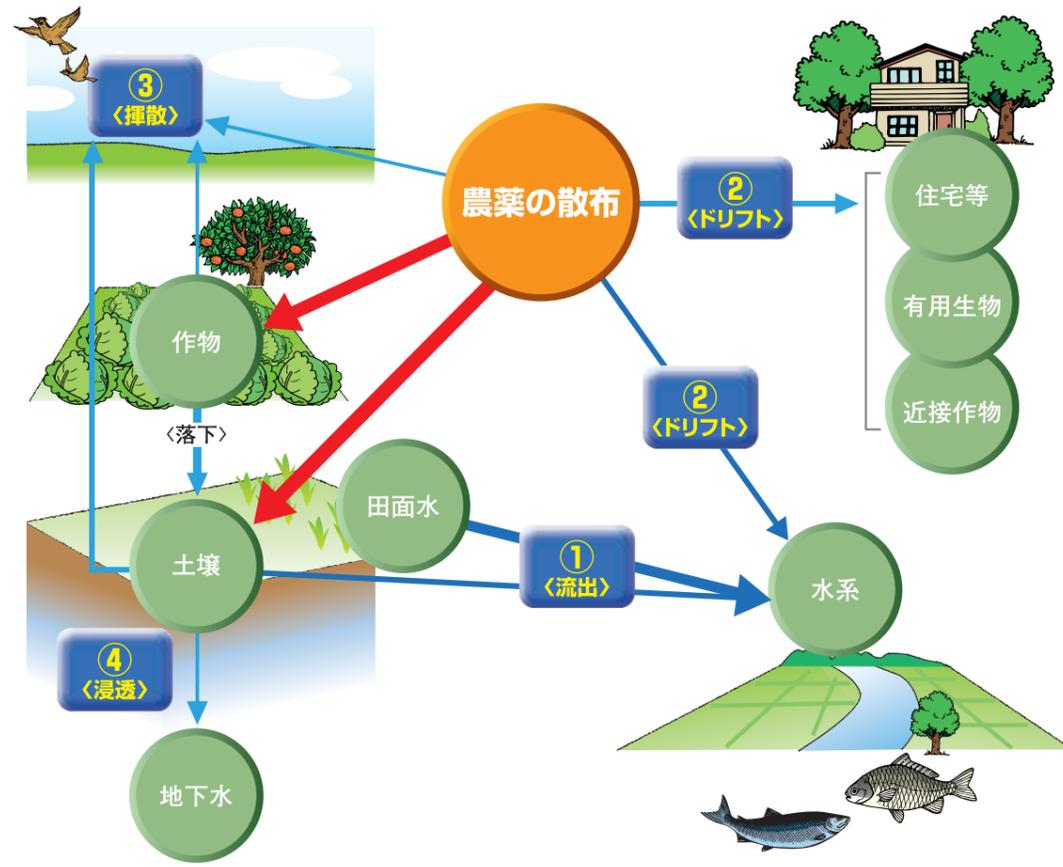
## 農薬が水系へ流出する経路

農薬が圃場から水系へ流出する可能性のある経路としては大きく分けて以下の4つが挙げられます。

- ① 地表での水や土壌の移動にともなって水系に流出する(表面流出)
- ② 飛散(ドリフト)したものが水系に入る
- ③ 揮散したものが水系に入る
- ④ 土壌中での地下浸透にともなって水系に流出する

このなかで①の経路が可能性としては最も大きく、次いで②の経路となります。このパンフレットでは①と②の経路について水系への農薬流出を防止する技術を紹介していきます。

■ 散布された農薬の環境中への流出経路



(「農業概説 2006」より引用、一部改変)

# 2 水田の適正な管理についてチェックしておきましょう

水系への農薬流出を防止するために、以下のチェックシートに従って作業を確認しましょう。



## 1. 作付け前の圃場の準備

(詳細は→6~7ページ)

- 畦塗り
- 田面の均平
- 資材や植生で畦畔を増強
- 浅水で代かき実施

## 2. 農薬処理時の留意点

(詳細は→8~9ページ)

### 育苗箱処理

- 育苗箱下にシートを敷く

### 湛水処理

- 水尻に止水板を設置
- 処理前の十分な湛水
- 処理前に水口を止める
- 止水板の高さが水面から十分高い位置か確認
- 処理前にもう一度見回り、水尻や畦畔からの流出を補修

### 茎葉処理※

- 散布圧を適正に調整
- 飛散低減ノズルを使用

※ 畑・樹園地でも有効な防止技術

特に重要

## 3. 農薬処理後の水管理

(詳細は→10~11ページ)

- ラベルに「散布後7日間は落水・かけ流しをしない」とある農薬は、それを遵守
- 水尻や畦畔を見回り、流出を見つけたら補修する
- かけ流し防止の徹底「除草剤処理後7日間給水を止める止水管理」